

さわらび

第79号

令和5年2月20日発行



社会福祉法人 泰仁会
特別養護老人ホーム「やさと」

石岡市小倉442-1
TEL (0299) 43-0811代

特別養護老人ホーム「桜の郷 元気」

東茨城郡茨城町桜の郷231-7
TEL (029) 292-3900代



とっても楽しいクリスマス! (こぎつねの郷)

泰仁会ホームページ

泰仁会

検索



泰仁会ホームページ



やさとブログ



こぎつねの郷ブログ

題字「さわらび」について

題字の「さわらび」は泰仁会創始者である、江畑隆夫先生（理事長）のご夫人である江畑昭子様が、直筆にて創刊号に寄せてくださったものを継承しています。

「早蕨」（芽を出したばかりのワラビ）という意味があり、創立当初より泰仁会の永続発展を願っていたことがわかります。広報誌「さわらび」も第79号までに成長しました。

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



とっても上手に書けました



やさしと新年会



ご利用者を取り囲んでの餅つき



デイサービス鏡餅づくり



気持ちを新たに（年頭の辞）



巨大羽子板づくり



Merry Christmas!



みんなで大マラソン 2022

茨城県老人福祉施設協議会主催による、みんなで大マラソン大会に参加をしました。

新型コロナウイルスの影響により、毎年行われていたバレーボール大会の代わりにの企画となり、今回で三回目の開催となります。

やさとは石岡市運動公園で桜の郷元気と一緒に合計で三十キロメートルを走り切りました。



市長と語ろう

十一月に石岡市の谷島市長が来園され、市長と語ろう会を行いました。谷島市長から石岡市で取り組んでいる目玉事業（リーディングプロジェクト）を直接お聞きすることができ、やさとは職員からも石岡市への要望や現状をお伝えする貴重な時間となりました。



みんなで作ろう！

グループホームさわらびでは茨城県の伝統行事である「ならせ餅」づくりを行いました。

ならせ餅は紅白の餅を丸めて木の枝に飾りつけることで五穀豊穡や無病息災を願うものとなります。感染症に負けずいつまでも元気でいたいものです。



安 寧



泰仁会常務理事
桜の郷元氣施設長
永山 直人

新しい年となり昨年迄の出来事が、なお一層に遠ざかっていきます。昨年も、新型コロナウイルス対策に明け暮れた毎日でした。働く職員・ご利用者、そして関係者のみなさまにも、まさに「闘いの日々」だったと思います。その日々は、現在も変わってはおりません。高齢者の方々の、日々の暮らしを支援する事が、私たちの仕事ではありませんが、激動の時代を生き抜いてきた方々が、人生を完結させようという時に、「目に見えない敵」と対峙している姿に、やり場のない憤りを感じています。もっと、家族との面会時間があれば、あるいは触れ合う時間を、もう少し取ればと、気持ちは家族の方々と同じです。コロナ禍に入り4年目。

報道では、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを、2類から5類にと言っておりましたが、要介護高齢者の方々の支援する私たちにとっては、コロナウイルスは、「命にかかわる恐ろしい感染症であり続けている」、という事実にもっと目を向けて欲しいと思っています。社会全体を見れば、ロシア軍のウクライナ侵攻は未だ止まらず、多くの尊い命が犠牲になっていきます。この戦争は止められないのでしょうか。新しいNHKの大河ドラマ「どうする家康」が始まりました。弱気な家康の青年期が描かれておりますが、いずれ世を治める天下人となることは、いうまでもありません。現代のロシア軍侵攻とは、かけ離れますが、戦国時代の多くの武将たちは、その戦いに「義」の旗を掲げていました。信玄・信長・秀吉も、自身が国を平定して、「戦のない世の中」を作ろうとしていました。「平安・平穏・安寧」を願っていたのです。私たちの仕事は、地域の高齢者や、施設入居者の暮らしを守ることが、「義」ですから、高齢者の方々を感染症や戦争によって苦しめたくはありません。世界はどうなってしまうのか。と不安を

抱えていた昨春に、勇気づけられた事もありました。私たちの施設の目の前には、常磐大学の看護学部が、(旧)水戸医療センター附属看護学校の校舎跡地で運営しています。その看護学部第一期生の方々より、春先の卒業に寄せて御礼状をいただいたおり、事務室の書庫を整理している時に、その礼状を再び目にしました。「…看護学部在学中の4年間の半分以上がコロナ禍という、未曾有の状況にありましたが、皆様方には、そのような中においても私たちの教育が維持できることに、ご尽力をいただきました。(中略)これまで学んできたことを胸に、目や耳では直接見えない・聞こえない患者様の心の声に気づくことができる看護職となれるよう、初心を忘れずに、また看護学部第一期生として誇れるように、精進を続けていきたいと思えます。」そして最後には「未熟な私たちではありますが、地域に根ざし、人々の健康課題と向き合いながら、質の高い看護の実践と研究を志します。」とありました。コロナ禍にあっても勇気づけられる、心温まるメッセージに、しばらく目が離せませんでした。このように頑張っている

若者や学生もおり、今はきつと各地の医療現場で患者さんに寄り添い、コロナウイルスとも闘っていることでしょう。わたしたち介護現場の者も、負けずに高齢者の笑顔のために頑張っていきたいですね。この1月17日で、「阪神・淡路大震災」から28年が経過しました。平成7年のこの年は、「地下鉄サリン事件」も発生しています。また、私たち泰仁会も、この年に認可を受けました。28年間は長くもあり、あつという間でもありました。未来永劫に、泰仁会が創始者である江畑隆夫先生の「あつてよかった・いてよかった」との法人理念を永続発展させるために、令和5年も菊地理事長のもと、役員一体となり「泰仁会経営理念」を堅持していく所存です。今年は令和6年度からの「第9期介護保険事業計画」を立案する年度に入ります。桜の郷元氣の所在する茨城町より、高齢者福祉計画及び、介護保険事業計画策定委員会委員の委嘱を受けておりますので、地域の高齢者介護福祉のために、積極的な発言をしていきたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

★施設と病院の違い

特養看護師 高輪 綾

病院やクリニックは病気やケガの治療を目的としています。

介護施設は「暮らしの場」であり、比較的医療ケアを行う場面は少なく、ご利用者の日々の健康管理が主な業務となっています。ご利用者の日常生活と治療のバランスをとる為、介護職員やその他の専門職と連携し業務する必要があります。

私は、病院に10年、介護施設のデイサービスで1年勤務し現在に至ります。病院では、朝礼の後、挨拶に回りながら環境整備をし、受け持ち患者様の清潔ケア、ケアをしながら時間で点滴やリハビリ、検査、オペ出しがあり、あつという間に午前中が終わりです。午後はバイタルサイン測定、オペ後の状態観察やカルテ整理等で患者様とゆつくりお話しする時間もなく、常に時間に追われて仕事をしていました。

介護施設では、生活の場の中でご利用者の健康管理をしています。80人分の内服管理をし、受診対応もします。ご利用者の体調変化を見逃



さないよう、常に関りを持つている介護職員と情報共有しながら、体調不良者のバイタルチェックを行ったり、褥瘡などの皮膚トラブルがある場合、軟膏処置をしたりします。介護施設には、基本的に医師が常駐していないため、ご利用者が急に体調を崩されたりケガをした際には、現場の代表として対応し、迅速かつ冷静な判断が必要になります。何かあれば医師が判断して、指示通りに動いていた病院とは大きな違いであり、スキルが問われ責任重大だなと感じることもあります。

しかし、1人で考え判断するのはなくみんなの知識で考え迅速に判断することが出来ており異常の早期発見、早期受診につながっていると思います。

また、ご家族の思いに寄り添い、暮らしの場でできる看護を行うのが病院と施設看護師の違いだと感じます。

今回、この機会に振り返ってみると、私自身ご利用者とコミュニケーションをとることが出来ている事、時間に余裕が出来たこと、責任感がさらに強くなったことが大きく変わったことだと思います。病院での経験があつて、施設で活かしている部分も多くあります。病院での経験もいかながら今後も、ご利用者が安心して生活できる場となるよう関わってまいります。

★腰痛予防の大切さ

生活相談員 高橋まゆみ

腰痛予防モデル施設の指定を受け2年が経過しました。コロナ禍もあり、オンラインを通じて他の施設の腰痛予防の取り組みを参考にしながら担当者を中心に腰痛予防を推進で

きるよう活動しています。入浴リフト導入直後、操作を覚える事が面倒という理由で職員には不評でしたが、実際にリフトに触れる事で、入居者様を無理に抱え上げたり、身体機能の低下から浴槽を跨ぐことが困難な方にも負担が少なくなり、職員の腰痛予防だけではなく入居者様も守れていることに改めて気づきました。



福祉用具について、まず担当者が正しい知識を持つことで各職員に正しい使用方法を伝える事が出来ます。法人の経営理念の中に「職員の生活を保障し健全な職場作りをします」とありますが、正しい福祉用具の使用は職員を守る事であり、また、ご利用者・入居者を守る事に繋がると考えています。

4年目を迎えた デイサービス ひたちの長岡

デイサービス 介護職員 富永 聡子

私は、ひたちの長岡の開設から半年がたった頃に中途採用で入社しました。以前もデイサービスで働いていましたが、ひたちの長岡の魅力は個々のプログラムを提供しており、自己決定が出来る環境になっているところです。

また、プログラム内容が変わらないままだと飽きてきてしまう為、毎月の会議や日頃の意見交換で利用者様が「楽しかった!」と思ってもらえるようにプログラムの変更を行っています。



塗り絵や間違い探しの他にパズルや季節ごとの作品作り、輪投げなどさまざまなサービスを提供しており、利用者様の笑顔や笑い声を見受けられます。

開設から4年目を迎え、いろいろと基盤は出来て有難いことに利用者様も定着してきましたが、更に利用者様の満足度を上げるためには、サービス内容の変更だけでなく人材育成も必要になってくると思いますが、私たち職員は、利用者様の小さな変化にも気づき、安心・安全に生活出来て、ひ

たちの長岡に来ると元気になると思ってもらえるように職員の間々のレベルアップを図るように、毎月、オンラインで研修を行っています。当法人泰仁会の理念や、桜の郷元気拠点の理念を含めて、ひたちの長岡の良いところを次世代に繋げていきたいと考えています。

今年も、職員全員でがんばっていきますので、よろしくお願いします。



★シヨートステイ への思い

ユニットリーダー 三輪 和世

令和3年9月よりシヨートステイユニットの主任として従事させていただき、1年が経過しました。ユニット全体の動きを見ながら職員を支える立場の違い、ユニットの運営をしながら利用者対応をしていく難しさに最初は戸惑いも多くありましたが、利用者様の笑顔に何度も救われてきました。私が主任となり、運営をしていく中で目指すケアとして『元気のシヨートステイに来てよかった、また来たい』と思って頂けるようなサービスを提供していきたいと思っております。コロナ禍であり外出行事を行う事が難しい為、少しでも食を通して楽しんで頂けるよう、定期的にユニット職員がおやつを作り提供させて頂いたり、体を動かせるようなレクリエーション活動も取り入れておりますが、自己選択・自己決定が出来るよう一人一人に伺いながら対応させて頂いております。まだまだ未熟ではありますが、利用者様に笑顔で過ごして頂けるよう、今後もアプローチしていきたいと思っております。



★私の 目指すケア

ユニットリーダー 塚田 悠

私はユニットリーダーとして、誰しもが持つている入居者様の生活習慣やリズムを尊重し、その人らしさを大切にしたいケアをしたいと思いい日々支援にあたっていきます。介護の難しさを感じるのは、本人が希望したことをすべてそのまま行う事だけではなく、時には健康管理のために、ご本人に説明をして別の方法を選択すべき時があることです。以前、とても寒がりでも夏でも上着を重ね着する入居者様がいらっしゃいました。もしその方の希望通りの状態



にしておけば、汗をかき風邪を引いてしまっていたと思います。その結果高齢者は肺炎につながるケースも少なくありません。このように、先々のことが見通せるのであればそれを防ぐのが介護職の役割、専門職の仕事であり、何でも言うことを聞く都合の良い職員になってしまつてはいけません。入居者様のニーズ全てに応えることは、その時々の環境などで難しい場合もありますが、どうすれば応えることができるか常に考え、努力することは必要です。そして介護の考え方も時代と共に進化しているため、自分自身の成長も必要であり、自分に何が足りていないのか課題を見つけ、解決に向けて日々学びを深めていくことが大切だと感じています。

編集後記

長引くコロナ禍で、働くスタッフへも相当のストレスがかかっています。それを絶対に表情に出さず、日々、笑顔で利用者を守っている姿に感謝をすると同時に、感動をさせられています。少しでもみなさんの負担を軽減させてあげたい。これが介護施設の責任者たちの声です。それには、コロナが無くなるだけではなく、かわる人へのさまざまな支援策を充実させてほしいです。通常国会が開会しました。防衛費の増額・少子化対策も必要な議論ですが、同時に、今の日本を守っているエッセンシャルワーカーへの配慮を、もっと目に見える形で議論してほしいと願います。★このコロナ禍で、外出する機会も減つたため、新しい趣味ができました。一人で日本酒を飲みながら、映画鑑賞する時間をとても楽しみにしています。最近、深夜に、涙をぼろぼろとこぼしてしまつた作品は、「地下鉄(メトロ)に乗って」(浅田次郎原作・篠原哲雄監督・2006年10月公開)です。是非、ご覧になってください。

(令和5年1月25日・永山直人)